

## 青森県西目屋村

住所	〒036-1492 青森県中津軽郡西目屋村田代神田57
村長	桑田 豊昭
HP	<a href="http://www.nishimeya.jp/index.html">http://www.nishimeya.jp/index.html</a>
バイオマス産業都市選定年度	2017年度
バイオマス産業都市構想	<a href="https://www.jora.jp/wp-content/uploads/2021/02/4_nishimeya.pdf">https://www.jora.jp/wp-content/uploads/2021/02/4_nishimeya.pdf</a>
担当部署	建設課
連絡先 TEL	0172-85-2802
連絡先 FAX	0172-85-3040







子育て定住エコタウン道路融雪プラント

主要設備	薪ボイラー（581kW×2基）蓄熱タンク（18t）
薪使用量	約300m <sup>3</sup> ／年 ※丸太換算体積
利用用途	ロードヒーティング（2,900m <sup>2</sup> ）
竣工	2018年12月



融雪道路



プロジェクトNo.2		地域熱供給システムプロジェクト（もりのいずみ）
実施主体		西目屋村（一般社団法人ブナの里 白神公社）
HP		<a href="https://www.mori-no-izumi.com/">https://www.mori-no-izumi.com/</a>
使用する技術		温泉施設へ薪ボイラーによる加温供給
実施体制	ボイラーメーカー	株式会社タケザワ
	設計・施工業者	株式会社森のエネルギー研究所
概要	バイオマス原料	木材
	利用量(t/年)	73
	発熱量(MJ/年)	735,840



薪ボイラー施設



薪ボイラー

プロジェクトNo.3		薪製造プロジェクト
実施主体		西目屋村(西目屋村薪エネルギー株式会社)
HP		<a href="https://meyamaki.com/company/">https://meyamaki.com/company/</a>
使用する技術		木質燃料（薪）の製造
実施体制	プラントメーカー	西目屋薪エネルギー株式会社
	設計・施工業者	西目屋薪エネルギー株式会社
概要	バイオマス原料	木材
	利用量(t/年)	270



自動薪割り機



薪集積場





**薪製品保管庫**

プロジェクトNo.4		地域熱供給システムプロジェクト（村内外施設）
実施主体		西目屋村（一般社団法人ブナの里 白神公社）
HP		<a href="https://www.kumagera.net/company/">https://www.kumagera.net/company/</a>
使用する技術		温泉施設へ薪ボイラーによる給湯
概要	バイオマス原料	木材
	利用量(t/年)	6



**温泉施設グリーンパーク もりのいずみ**

(<https://www.mori-no-izumi.com/>より)

## バイオマス事業の進捗状況

事業化プロジェクト名	計画との進捗比較※	進捗状況(具体的な記述)	達成率(%)
1. 地域熱供給システムプロジェクト(エコタウン)	A	2018年12月竣工	100
2. 地域熱供給システムプロジェクト(もりのいずみ)	A	2017年3月竣工	100
3. 薪製造プロジェクト	A	2017年開始	100
4. 地域熱供給システムプロジェクト(村内外施設)	D	未着手 インフラ整備から供給体制など、供給先が拡大した場合の全体構想からキャッシュフローも含めた実施計画、更に協力体制の構築が必要のため。	0

※計画との進捗比較 A)計画以上に進捗している B)ほぼ計画通り C)計画より遅れている D)進んでいない

### ①イニシャルコスト(千円)

事業化プロジェクト名	1. 熱供給システムプロジェクト(エコタウン)	2. 熱供給システムプロジェクト(もりのいずみ)
建設費・設備費等	312,000	44,000

### ②ランニングコスト(千円/年)

事業化プロジェクト名	1. 熱供給システムプロジェクト(エコタウン)	2. 熱供給システムプロジェクト(もりのいずみ)
人件費	1,411	
原料等購入費	3,388	1,829
ユーティリティ費	1,279	

## 成功要因・波及効果

### ①成功要因

プロジェクト名	成功要因
1. 地域熱供給システムプロジェクト(エコタウン)	地域課題解決(人口減少対策)等と合わせた政策だった。

2.地域熱供給システムプロジェクト (もりのいずみ)	課題解決（温泉施設の経費削減）等と合わせた政策だった。
-------------------------------	-----------------------------

## ②波及効果（雇用増加、CO<sub>2</sub>削減効果等）

事業化 プロジェクト名	波及効果
1.地域熱供給システムプロジェクト (エコタウン)	人件費及び原木入による 地域還元年間：4,200千円程度
2.地域熱教官システムプロジェクト (もりのいずみ)	温泉施設の燃料費削減 年間：1,123千円程度

## ③停滞要因

事業化プロジェクト名	停滞要因
1. 熱供給システムプロジェクト (村内外市施設)	需要先の確保。 インフラ整備から供給体制など、供給先が拡大した場合の全体構想からキャッシュフローも含めた実施計画、更に協力体制の構築が必要なため。

## ④運営上の課題

事業化 プロジェクト名	運営上の課題
1. 熱供給システムプロジェクト(村内外施設)	資金調達

## ⑤今後の展開

### ・再生可能エネルギー施策の位置付け

再生可能エネルギーの導入に関しては、村として一定の取組実績があるものの、近年は新たな事業展開に向けた検討は限定的となっている。

今後、民間主体の事業を進めるためにも、行政の関与や方向性の整理が重要な要素となる。



・木質燃料供給と事業展開の方向性

薪の製造・供給は一定規模に達しており、現行体制の中での供給拡大には制約がある。実施企業では、次の展開として木質チップ製造への取組が検討されている。需要拡大に向けては、村内に加え、周辺市町村との連携による導入先の検討が期待される。

## 脱炭素化の取組状況

計画名称等	策定年度
地方公共団体実行計画 （区域施策編）	令和6年3月 <a href="https://www.nishimeya.jp/sonseijoho/gyozaisei/872.html">https://www.nishimeya.jp/sonseijoho/gyozaisei/872.html</a>